【凡例】作業主体(◎), 支援(△), 関与せず(-)　　【凡例】★＝Ver1.0から変更したもの。

※モデルベース・アーキテクトが主体的に活動する場面があれば◎とする。(モデルベース・アーキテクトだけが主体的に活動するわけではない。)

共通フレーム2007(SLCP-JCF2007)プロセス				タスク詳細											
プロセス	アクティビティ	タスク		No.	サブタスク	成果物サンプル有＝◎	No.	成果物名称		モデル化	備考	モデルベースアーキテクト役割	理由
1.6	開発プロセス												
	1.6.1	プロセス開始の準備											
			1 開発作業のライフサイクルモデルへの対応付け									△	主作業者はﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾏﾈｰｼﾞｬ。指針を示すのは品質管理部門または標準化策定部門。
			2 必要な支援プロセスの実施									-	主作業者は開発担当。
			3 開発環境の準備				1	プロジェクト管理基準				△	主作業者はITｽﾍﾟｼｬﾘｽﾄ。ﾓﾃﾞﾙﾍﾞｰｽｱｰｷﾃｸﾄはｱｰｷﾃｸﾄに関わる適切なものを選択する。
							2	システム開発標準規約					
							3	用語集					
			4 開発プロセス実施計画の作成				4	プロジェクト計画書				△	主作業者はﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾏﾈｰｼﾞｬ。
			5 非納入品目の使用の容認									△	主作業者はITｽﾍﾟｼｬﾘｽﾄ。責任を負うのはﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾏﾈｰｼﾞｬ。
	1.6.2	システム要件定義											
			1 システム要件の定義	1	システム化範囲の決定		5	新システム全体図				◎	主作業者はﾓﾃﾞﾙﾍﾞｰｽｱｰｷﾃｸﾄ。1.5要件定義ﾌﾟﾛｾｽ(1.5.2.4機能要件の定義, 1.5.2.5非機能要件の定義)を踏まえて技術要件に変換する。
				2	非機能要件の定義	◎	6	非機能要件定義書					
				3	ビジネスルール定義	◎	7	ビジネスルール定義書					
				4	業務機能階層定義	◎	8	業務機能階層図					
				5	新業務フロー作成	◎	9	業務フロー図		○			
						◎	10	ユーザインターフェースイメージ(画面・帳票)					
							3	用語集					
						◎	11	DFD(コンテキスト, 第一レベル)		○			
				6	概念データモデル作成	◎	12	概念データモデル－エンティティ関連図		○			
						◎	13	概念データモデル－エンティティ記述					
							14	業務機能－エンティティ相互関係マトリクス					
				7	運用方針作成		15	運用方針					
				8	開発コストの見積り		16	開発コスト(システム要件定義)					
							17	費用対効果(システム要件定義)					
					とりまとめ文書		18	システム要件定義書					
			2 システム要件の評価				19	評価記録				◎	評価は本ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨの主作業者が品質管理基準に則り実施する。ﾓﾃﾞﾙﾍﾞｰｽｱｰｷﾃｸﾄは, 評価基準に従いｱｰｷﾃｸﾄの観点で適切な評価を行う。
			3 システム要件の共同レビューの実施				20	レビュー記録(次タスクへ進んでよいかの完了審査)				◎	共同ﾚﾋﾞｭｰとは2.6共同ﾚﾋﾞｭｰﾌﾟﾛｾｽであり, 本ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨにおける終了判定を行う。ﾓﾃﾞﾙﾍﾞｰｽｱｰｷﾃｸﾄはｱｰｷﾃｸﾁｬに関するﾚﾋﾞｭｰを行い, 共同ﾚﾋﾞｭｰには全て参加する。
	1.6.3	システム方式設計											
			1 システムの最上位レベルでの方式確立	1	H/W, S/W構成検討		21	H/W･N/W構成図				△★	SW,HW,N/Wに関する決定や作業はｲﾝﾃｸﾞﾚｰｼｮﾝｱｰｷﾃｸﾄ, ｲﾝﾌﾗｽﾄﾗｸﾁｬｱｰｷﾃｸﾄが行う。ﾓﾃﾞﾙﾍﾞｰｽｱｰｷﾃｸﾄはSWについて支援する。★
							22	S/W構成図					
					とりまとめ文書		23	システム方式設計書					
			2 利用者文書(暫定版)の作成	1	操作マニュアル作成		24	操作マニュアル(暫定版)				△	業務運用についての主作業者はｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝｽﾍﾟｼｬﾘｽﾄ(業務をよく知っているから)。ｼｽﾃﾑ運用についてはITｽﾍﾟｼｬﾘｽﾄ。なお利用者文書とは, SLCP2007の定義には「ｼｽﾃﾑ運用ﾏﾆｭｱﾙ, 業務運用ﾏﾆｭｱﾙなどの文書を
				2	システム運用マニュアル作成		25	システム運用マニュアル(暫定版)					
				3	業務マニュアル作成		26	業務マニュアル(暫定版)					
			3 システム結合のためのテスト要求事項の定義	1	テスト計画作成		27	テスト計画書(暫定版)			1.6.10.1で確定。	△★	1.6.3.1と同様。
			4 システム方式の評価				20	評価記録				◎	評価は本ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨの主作業者が品質管理基準に則り実施する。ﾓﾃﾞﾙﾍﾞｰｽｱｰｷﾃｸﾄは, 評価基準に従いｱｰｷﾃｸﾄの観点で適切な評価を行う。
			5 システム方式設計の共同レビューの実施				21	レビュー記録(次タスクへ進んでよいかの完了審査)				◎	共同ﾚﾋﾞｭｰとは2.6共同ﾚﾋﾞｭｰﾌﾟﾛｾｽであり, 本ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨにおける終了判定を行う。ﾓﾃﾞﾙﾍﾞｰｽｱｰｷﾃｸﾄはｱｰｷﾃｸﾁｬに関するﾚﾋﾞｭｰを行い, 共同ﾚﾋﾞｭｰには全て参加する。
	1.6.4	ソフトウェア要件定義											
			1 ソフトウェア要件の確立	1	システム化範囲の決定		5	新システム全体図				◎	ｿﾌﾄｳｪｱに要求される処理性能や機能仕様, ｾｷｭﾘﾃｨ仕様等のｿﾌﾄｳｪｱ要件確立はﾓﾃﾞﾙﾍﾞｰｽｱｰｷﾃｸﾄ, ITｽﾍﾟｼｬﾘｽﾄが主体となって洗い出す(明確にする)ﾀｽｸ。
				2	非機能要件の定義		6	非機能要件定義書					
				3	ビジネスルール定義		7	ビジネスルール定義書					
				4	業務機能階層定義		8	業務機能階層図					
				5	新業務フロー作成		9	業務フロー図		○			
							10	ユーザインターフェースイメージ(画面・帳票)					
							3	用語集					
							11	DFD(コンテキスト, 第一レベル)		○			
				6	概念データモデル作成		12	概念データモデル－エンティティ関連図		○			
							13	概念データモデル－エンティティ記述					
							14	業務機能－エンティティ相互関係マトリクス					
				7	運用方針作成		15	運用方針					
				8	開発コストの見積り		16	開発コスト(ソフトウェア要件定義)					
							17	費用対効果(ソフトウェア要件定義)					
					とりまとめ文書		28	ソフトウェア要件定義書					
			2 ソフトウェア要件の評価				20	評価記録				◎	評価は本ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨの主作業者が品質管理基準に則り実施する。ﾓﾃﾞﾙﾍﾞｰｽｱｰｷﾃｸﾄは, 評価基準に従いｱｰｷﾃｸﾄの観点で適切な評価を行う。
			3 ソフトウェア要件の共同レビューの実施				21	レビュー記録(次タスクへ進んでよいかの完了審査)				◎	共同ﾚﾋﾞｭｰとは2.6共同ﾚﾋﾞｭｰﾌﾟﾛｾｽであり, 本ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨにおける終了判定を行う。ﾓﾃﾞﾙﾍﾞｰｽｱｰｷﾃｸﾄはｱｰｷﾃｸﾁｬに関するﾚﾋﾞｭｰを行い, 共同ﾚﾋﾞｭｰには全て参加する。
	1.6.5	ソフトウェア方式設計											
			1 ソフトウェア構造とコンポーネントの方式設計	1	サブシステム設計		29	サブシステム説明書(図, 一覧, レイアウト)				△	ｿﾌﾄｳｪｱ要件を元に方式を設計するのは, ITｽﾍﾟｼｬﾘｽﾄ･ｴﾝｼﾞﾆｱが主体となって行う作業。(ﾓﾃﾞﾙﾍﾞｰｽｱｰｷﾃｸﾄは各作業のﾌｫﾛｰ及びﾚﾋﾞｭｰを行う。)
						◎	11	DFD(コンテキスト, 第一レベル)		○			
				2	システム機能設計(1)	◎	30	システム機能一覧					
						◎	31	DFD(基本ﾚﾍﾞﾙ)		○			
						◎	32	プロセス定義書					
						◎	33	データフロー定義書					
						◎	34	データストア定義書					
				3	システム機能設計(2)	◎	35	ロバストネス図		○			
							36	メソッド候補リスト					
						◎	37	クラス図(論理レベル)		○			
							38	シーケンス図(論理レベル)		○			
				4	バッチ処理機能設計		39	システム処理フロー(バッチ)		○			
							40	システム処理機能記述(バッチ)					
							41	チェック仕様					
							42	メッセージ一覧					
				5	セキュリティ設計		43	セキュリティ設計書					
			2 外部, コンポーネント間の各インターフェースの方式	1	システム機能設計(1)		44	システム間インターフェース仕様(図, 一覧, レイアウ				△	1.6.5.1と同様。
				2	ユーザインターフェース設計(画面／帳票)	◎	45	画面遷移図		○			
						◎	46	ユーザーインターフェース一覧(画面・帳票)					
						◎	47	ユーザーインターフェース仕様(画面・帳票)					
			3 データベースの最上位レベルの設計	3	データベース論理設計		48	コード設計				△	ITｽﾍﾟｼｬﾘｽﾄ(DBA)が主体となって行うﾀｽｸ。ﾓﾃﾞﾙﾍﾞｰｽｱｰｷﾃｸﾄが参画するのは, 助言, ﾚﾋﾞｭｰ等。
						◎	49	論理データモデルエンティティ関連図		○			
						◎	50	論理データモデルエンティティ一覧					
							51	論理データモデルエンティティ記述					
							52	システム機能ーエンティティ相互関連マトリックス					
					とりまとめ文書		53	ソフトウェア方式設計書					
			4 利用者文書(暫定版)の作成	1	操作マニュアル作成		24	操作マニュアル(暫定版)				△	ｿﾌﾄｳｪｱ方式設計の主担当者が実施。
				2	システム運用マニュアル作成		25	システム運用マニュアル(暫定版)					
				3	業務マニュアル作成		26	業務マニュアル(暫定版)					
			5 ソフトウェア結合のためのテスト要求事項の定義	1	テスト計画作成		27	テスト計画書(暫定版)			1.6.8.1で確定。	△	1.6.5.1と同様
			6 ソフトウェア方式設計の評価				20	評価記録				◎	評価は本ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨの主作業者が品質管理基準に則り実施する。ﾓﾃﾞﾙﾍﾞｰｽｱｰｷﾃｸﾄは, 評価基準に従いｱｰｷﾃｸﾄの観点で適切な評価を行う。
			7 ソフトウェア方式設計の評価共同レビューの実施				21	レビュー記録(次タスクへ進んでよいかの完了審査)				◎	共同ﾚﾋﾞｭｰとは2.6共同ﾚﾋﾞｭｰﾌﾟﾛｾｽであり, 本ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨにおける終了判定を行う。ﾓﾃﾞﾙﾍﾞｰｽｱｰｷﾃｸﾄはｱｰｷﾃｸﾁｬに関するﾚﾋﾞｭｰを行い, 共同ﾚﾋﾞｭｰには全て参加する。
	1.6.6	ソフトウェア詳細設計											
			1 ソフトウェアコンポーネントの詳細設計 2 ソフトウェアインターフェースの詳細設計	1	プログラム設計(オンライン)		54	クラス図(物理レベル)		○		-	ｿﾌﾄｳｪｱ開発の実務者であるｴﾝｼﾞﾆｱが主体となって行う作業。ﾓﾃﾞﾙﾍﾞｰｽｱｰｷﾃｸﾄはｿﾌﾄｳｪｱ詳細設計の実施者ではないが, ｿﾌﾄｳｪｱ方式と照らし合わせ, 助言, 評価, ﾚﾋﾞｭｰをする役割。
							55	クラス仕様					
							56	シーケンス図(物理レベル)		○			
							57	O-Rマッピング表					
							58	パッケージ図		○			
				2	プログラム設計(バッチ)		59	バッチプログラム一覧					
							59	プログラム設計書(バッチ)					
							59	ファイルレイアウト					
							59	ジョブフロー図		○			
			3 データベースの詳細設計	1	データベース物理設計		59	物理データモデルーエンティティ関連図		○		-	DBAが主体となって行うﾀｽｸ。
							60	データ構造仕様(テーブル項目定義書(物理データモデ					
							61	データ保管仕様					
					とりまとめ文書		62	ソフトウェア詳細設計書					
			4 利用者文書の更新	1	操作マニュアル作成		24	操作マニュアル(暫定版)				-	1.6.6.1と同様。
				2	システム運用マニュアル作成		25	システム運用マニュアル(暫定版)					
				3	業務マニュアル作成		26	業務マニュアル(暫定版)					
			5 ソフトウェアユニットのテスト要求事項の定義	1	テスト計画作成		27	テスト計画書			1.6.10.1で確定。	-	1.6.6.1と同様。
			6 ソフトウェア結合のためのテスト要求事項の更新	1	テスト計画作成		27	テスト計画書			1.6.8.1で確定。	△	1.6.6.1と同様。
			7 ソフトウェア詳細設計及びテスト要求事項の評価				20	評価記録				△	評価は本ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨの主作業者が品質管理基準に則り実施する。ﾓﾃﾞﾙﾍﾞｰｽｱｰｷﾃｸﾄは, 評価基準に従いｱｰｷﾃｸﾄの観点で適切な評価を行う。
			8 ソフトウェア詳細設計の共同レビュー				21	レビュー記録(次タスクへ進んでよいかの完了審査)				△	共同ﾚﾋﾞｭｰとは2.6共同ﾚﾋﾞｭｰﾌﾟﾛｾｽであり, 本ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨにおける終了判定を行う。ﾓﾃﾞﾙﾍﾞｰｽｱｰｷﾃｸﾄはｱｰｷﾃｸﾁｬに関するﾚﾋﾞｭｰを行い, 共同ﾚﾋﾞｭｰには全て参加する。
	1.6.7	ソフトウェアコード作成及びテスト											
			1 ソフトウェアユニットとデータベースの作成及びテスト手順とテストデータの作成	1	データベースの構築		63	スキーマ定義(DDL)				-	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾏが担当し, ﾓﾃﾞﾙﾍﾞｰｽｱｰｷﾃｸﾄは関与しない。
							-	データベース					
				2	プログラム作成		-	ソースコード					
				3	単体テスト設計・準備		64	単体テスト仕様書	ロジックテスト観点リスト				
									ロジックテスト項目表				
									ロジックテストケース設定表				
							-	単体テスト環境					
							-	単体テストデータ					
			2 ソフトウェアユニットとデータベースのテストの実施	1	単体テスト		65	単体テスト実施結果の記録				-	1.6.7.1と同様。
			3 利用者文書の更新	1	操作マニュアル作成		24	操作マニュアル				-	単体ﾃｽﾄの結果, 修正する必要がある場合は更新する。
				2	システム運用マニュアル作成		25	システム運用マニュアル					
				3	業務マニュアル作成		26	業務マニュアル					
			4 ソフトウェア結合テスト要求事項の更新	1	結合テスト設計・準備		66	結合テスト仕様書	業務機能テスト観点リスト			△	単体ﾃｽﾄのﾊﾞｸﾞの傾向等を分析し, どのような観点の結合ﾃｽﾄが必要か見直すﾀｽｸ。ｿﾌﾄｳｪｱ方式設計にてｿﾌﾄｳｪｱ結合のためのﾃｽﾄ要求事項の定義に関与していることから, ここでも内容に関与する。
									業務機能テスト項目表				
									業務機能テスト原因結果分析表				
									業務機能テストケース設定表				
									業務機能テスト手順書				
									いじわるテスト項目表				
									いじわるテスト観点リスト				
			5 ソフトウェアコード及びテスト結果の評価	1			20	評価記録				△	評価は本ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨの主作業者が品質管理基準に則り実施する。ﾓﾃﾞﾙﾍﾞｰｽｱｰｷﾃｸﾄは, 評価基準に従いｱｰｷﾃｸﾄの観点で適切な評価を行う。
	1.6.8	ソフトウェア結合			1.6.5と対応する。								
			1 ソフトウェア結合計画の作成	1	テスト計画作成		27	テスト計画書				△	ｿﾌﾄｳｪｱ方式設計にてｿﾌﾄｳｪｱ結合のためのﾃｽﾄ要求事項の定義に関与していることから, ここでも内容に関与する。
				2	結合テスト設計・準備		66	結合テスト仕様書	業務機能テスト観点リスト				
									業務機能テスト項目表				
									業務機能テスト原因結果分析表				
									業務機能テストケース設定表				
									業務機能テスト手順書				
									いじわるテスト項目表				
									いじわるテスト観点リスト				
							-	結合テスト環境					
							-	結合テストデータ					
			2 ソフトウェア結合テストの実施	1	結合テスト		67	結合テスト実施結果の記録	業務機能テスト実施結果の記録			-	ｴﾝｼﾞﾆｱが担当し, ﾓﾃﾞﾙﾍﾞｰｽｱｰｷﾃｸﾄが関与するﾀｽｸでは無い。
									いじわるテスト実施結果の記録				
			3 利用者文書の更新	1	操作マニュアル作成		24	操作マニュアル				-	ｴﾝｼﾞﾆｱが担当し, ﾓﾃﾞﾙﾍﾞｰｽｱｰｷﾃｸﾄが関与するﾀｽｸでは無い。
				2	システム運用マニュアル作成		25	システム運用マニュアル					
				3	業務マニュアル作成		26	業務マニュアル					
			4 ソフトウェア適格性確認テストの準備	1	結合テスト設計・準備		66	結合テスト仕様書	業務機能テスト観点リスト			△	ﾓﾃﾞﾙに記述されている事をｿﾌﾄｳｪｱが満たしているか確認する為のﾃｽﾄ仕様書を作成する為, ﾓﾃﾞﾙﾍﾞｰｽｱｰｷﾃｸﾄも関与する。
									業務機能テスト項目表				
									業務機能テスト原因結果分析表				
									業務機能テストケース設定表				
									業務機能テスト手順書				
									いじわるテスト項目表				
									いじわるテスト観点リスト				
							-	結合テスト環境					
							-	結合テストデータ					
			5 ソフトウェア結合テストの評価				20	評価記録				◎	評価は本ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨの主作業者が品質管理基準に則り実施する。ﾓﾃﾞﾙﾍﾞｰｽｱｰｷﾃｸﾄは, 評価基準に従いｱｰｷﾃｸﾄの観点で適切な評価を行う。1.6.5.6と対応するため関与する。
			6 ソフトウェア結合の共同レビュー実施				21	レビュー記録(次タスクへ進んでよいかの完了審査)				◎	共同ﾚﾋﾞｭｰとは2.6共同ﾚﾋﾞｭｰﾌﾟﾛｾｽであり, 本ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨにおける終了判定を行う。ﾓﾃﾞﾙﾍﾞｰｽｱｰｷﾃｸﾄはｱｰｷﾃｸﾁｬに関するﾚﾋﾞｭｰを行い, 共同ﾚﾋﾞｭｰには全て参加する。
	1.6.9	ソフトウェア適格性確認テスト			1.6.4と対応する。								
			1 ソフトウェア適格性確認テストの実施	1	結合テスト		67	結合テスト実施結果の記録	業務機能テスト実施結果の記録			△	ｴﾝｼﾞﾆｱが担当し, ﾓﾃﾞﾙﾍﾞｰｽｱｰｷﾃｸﾄは作業指示を出す。
									いじわるテスト実施結果の記録				
			2 利用者文書の更新	1	操作マニュアル作成		24	操作マニュアル				-	ｴﾝｼﾞﾆｱが担当し, ﾓﾃﾞﾙﾍﾞｰｽｱｰｷﾃｸﾄが関与するﾀｽｸでは無い。
				2	システム運用マニュアル作成		25	システム運用マニュアル					
				3	業務マニュアル作成		26	業務マニュアル					

Copyright© 特定非営利活動法人 UMLモデリング推進協議会 2012 All rights reserved.

【凡例】作業主体(◎), 支援(△), 関与せず(-)　　【凡例】★＝Ver1.0から変更したもの。

※モデルベース・アーキテクトが主体的に活動する場面があれば◎とする。(モデルベース・アーキテクトだけが主体的に活動するわけではない。)

共通フレーム2007(SLCP-JCF2007)プロセス				タスク詳細										
プロセス	アクティビティ	タスク		No.	サブタスク	成果物サンプル有＝◎	No.	成果物名称		モデル化	備考	モデルベースアーキテクト役割	理由
		3	ソフトウェア適格性確認テストの評価				20	評価記録				◎	評価は本ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨの主作業者が品質管理基準に則り実施する。ﾓﾃﾞﾙﾍﾞｰｽｱｰｷﾃｸﾄは，評価基準に従いｱｰｷﾃｸﾄの観点で適切な評価を行う。1.6.4.2と対応するため関与する。
		4	監査の支援									-	顧客の受入れﾃｽﾄの助言等の支援を行うﾌﾟﾛｾｽ。ここでの作業は顧客からの依頼に応じ成果物を示したりすることであり，ｴﾝｼﾞﾆｱが主体で行う。
		5	納入ソフトウェア製品の準備	1	本番移行		68	納品物一覧				-	本番環境へ移行する為に準備するﾀｽｸ。他のｱｰｷﾃｸﾄが主体になると思います。
							-	納品物					
	1.6.10	システム結合			1.6.3と対応する。								
		1	システム結合計画の作成	1	テスト計画作成		27	テスト計画書				△	ｼｽﾃﾑ結合は一般的には「他のｼｽﾃﾑとの間の連携ﾃｽﾄ」すなわちｼｽﾃﾑﾃｽﾄの一環と位置付ける。よって作業主体は開発チームであり，ITSSの職種だと"ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝｽﾍﾟｼｬﾘｽﾄ"が主体者。
				2	システムテスト設計・準備		70	システムテスト仕様書	業務運用テスト観点リスト				
									業務運用テストテストサイクルスケジュール				
									業務運用テスト項目表				
									業務運用テストケース設定表				
									業務運用テスト手順書				
									ユーザビリティテスト観点リスト				
									ユーザビリティテスト項目表				
									ユーザビリティテストケース設定表				
									ユーザビリティテスト手順書				
									性能テスト観点リスト				
									性能テスト項目表				
									性能テストケース設定表				
									性能テスト手順書				
									セキュリティテスト観点リスト				
									セキュリティテスト項目表				
									セキュリティテストケース設定表				
									セキュリティテスト手順書				
									システム運用テスト観点リスト				
									システム運用テスト項目表				
									システム運用テストケース設定表				
									システム運用テスト手順書				
							-	システムテスト環境					
							-	システムテストデータ					
		2	システム結合テストの実施	1	システムテスト		69	システムテスト実施結果の記録	業務運用テスト実施結果の記録			-	作業主体は開発チームであり，ITSSの職種だと"ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝｽﾍﾟｼｬﾘｽﾄ"が主体者。
									ユーザビリティテスト実施結果の記録				
									性能テスト実施結果の記録				
									セキュリティテスト実施結果の記録				
									システム運用テスト実施結果の記録				
		3	利用者文書の更新	1	操作マニュアル作成		24	操作マニュアル				-	作業主体は開発チームであり，ITSSの職種だと"ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝｽﾍﾟｼｬﾘｽﾄ"が主体者。
				2	システム運用マニュアル作成		25	システム運用マニュアル					
				3	業務マニュアル作成		26	業務マニュアル					
		4	システム適格性確認テストの準備	1	システムテスト設計・準備		70	システムテスト仕様書	業務運用テスト観点リスト			△	1.6.10.1と同様。
									業務運用テストテストサイクルスケジュール				
									業務運用テスト項目表				
									業務運用テストケース設定表				
									業務運用テスト手順書				
									ユーザビリティテスト観点リスト				
									ユーザビリティテスト項目表				
									ユーザビリティテストケース設定表				
									ユーザビリティテスト手順書				
									性能テスト観点リスト				
									性能テスト項目表				
									性能テストケース設定表				
									性能テスト手順書				
									セキュリティテスト観点リスト				
									セキュリティテスト項目表				
									セキュリティテストケース設定表				
									セキュリティテスト手順書				
									システム運用テスト観点リスト				
									システム運用テスト項目表				
									システム運用テストケース設定表				
									システム運用テスト手順書				
							-	システムテスト環境					
							-	システムテストデータ					
		5	システム結合テストの評価				20	評価記録				◎	評価は本ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨの主作業者が品質管理基準に則り実施する。ﾓﾃﾞﾙﾍﾞｰｽｱｰｷﾃｸﾄは，評価基準に従いｱｰｷﾃｸﾄの観点で適切な評価を行う。1.6.3.4と対応するため関与する。
		6	システム結合の共同レビュー実施				21	レビュー記録(次タスクへ進んでよいかの完了審査)				◎	共同ﾚﾋﾞｭｰとは2.6共同ﾚﾋﾞｭｰﾌﾟﾛｾｽであり，本ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨにおける終了判定を行う。ﾓﾃﾞﾙﾍﾞｰｽｱｰｷﾃｸﾄはｱｰｷﾃｸﾁｬに関するﾚﾋﾞｭｰを行い，共同ﾚﾋﾞｭｰには全て参加する。
	1.6.11	システム適格性確認テスト			1.6.2と対応する。								
		1	システム適格性確認テストの実施	1	システムテスト		71	システムテスト実施結果の記録	業務運用テスト実施結果の記録			-	ｼｽﾃﾑ適格性確認ﾃｽﾄは一般的には「業務運用ﾃｽﾄ」すなわちｼｽﾃﾑﾃｽﾄの一環と位置付ける。よって作業主体は開発チームであり，ITSSの職種だと"ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝｽﾍﾟｼｬﾘｽﾄ"が主体者と想定。
									ユーザビリティテスト実施結果の記録				
									性能テスト実施結果の記録				
									セキュリティテスト実施結果の記録				
									システム運用テスト実施結果の記録				
		2	システムの評価				20	評価記録				◎	ｼｽﾃﾑ適格性確認ﾃｽﾄは要件定義内容が正しく反映されているかのﾃｽﾄ(V字ﾓﾃﾞﾙ)。ﾃｽﾄ結果報告書を作成・評価するﾀｽｸ。1.6.2.2と対応するため関与する。
		3	利用者文書の更新	1	操作マニュアル作成		24	操作マニュアル				-	1.6.11.1と同様。
				2	システム運用マニュアル作成		25	システム運用マニュアル					
				3	業務マニュアル作成		26	業務マニュアル					
		4	監査の支援									-	監査は2.7監査ﾌﾟﾛｾｽであり，品質管理部門などを想定。よって主体者は別である。
		5	各納入ソフトウェア製品の準備	1	本番移行		68	納品物一覧				-	1.6.11.1と同様。
							-	納品物					
		6	運用，保守に引き継ぐソフトウェア製品の準備	1	本番移行		68	納品物一覧				-	1.6.11.1と同様。
							-	納品物					
	1.6.12	ソフトウェア導入											
		1	ソフトウェア導入(インストール)計画の作成	1	移行計画作成		69	移行計画				-	ITSSの職種だと"ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝｽﾍﾟｼｬﾘｽﾄ"，"ITｽﾍﾟｼｬﾘｽﾄ"が主体者と想
		2	ソフトウェア導入の実施	1	本番環境構築		73	本番環境				-	1.6.12.1と同様。
	1.6.13	ソフトウェア受入れ支援											
		1	取得者の受入レビューと受入テストの支援	1	ユーザテスト設計・準備		70	ユーザテスト仕様書	ユーザによる受け入れテスト項目表			◎	ﾕｰｻﾞ部門や情報ｼｽﾃﾑ部門が行う受入ﾃｽﾄ(ﾕｰｻﾞﾃｽﾄ)(運用ﾃｽﾄ)を想定。よって作業主体は別とする。ITSSの職種だと不明。 共同ﾚﾋﾞｭｰと同じ位置付けで受入ﾚﾋﾞｭｰも想定。
									ユーザによる受け入れテスト観点リスト				
									ユーザによる受け入れテストケース設定表				
									ユーザによる受け入れテスト手順書				
									新旧併行稼動による検証項目表				
									新旧併行稼動による検証観点リスト				
									新旧併行稼動による検証ケース設定表				
							-	ユーザテスト環境					
							-	ユーザテストデータ					
				2	ユーザテスト		71	ユーザテスト実施結果の記録	ユーザによる受け入れテスト実施結果の記録				
									新旧併行稼動による検証実施結果の記録				
		2	ソフトウェア製品の納入	1	本番移行		68	納品物一覧				-	1.6.13.1と同様。
							-	納品物					
							-	本番稼動システム					
		3	取得者への教育訓練及び支援	1	利用者教育		72	利用者教育結果				-	1.6.13.1と同様。

Copyright© 特定非営利活動法人 UMLモデリング推進協議会 2012 All rights reserved.